

| | | | | | |
|----------|-----------------|---------|----|-----|------|
| 授業科目名・形態 | コミュニケーション技術Ⅱ 講義 | 必修・選択の別 | 選択 | 単位数 | 2 |
| 科目担当者氏名 | 山田 克宏 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | 1年後期 |

【授業の主題】

臨床の場でクライアントは、様々な障害を抱えています。コミュニケーションを取る上で、障害の特性も理解していくことが求められます。そこで、本講では、様々な障害の特性、障害の特性に応じたコミュニケーション技術を学びます。さらに、利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護を行う上で必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- 1) クライアントの抱える障害に応じたコミュニケーション技術を実践できる。
- 2) 介護を行う際に求められるチームのコミュニケーションについて理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 コミュニケーション障害の理解
- 第2回 コミュニケーション障害のある利用者への対応
- 第3回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際①：高次脳機能障害
- 第4回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際②：失語症
- 第5回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際③：構音障害
- 第6回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際④：認知症
- 第7回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤：若年性認知症
- 第8回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥：視力障害
- 第9回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑦：聴力障害
- 第10回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑧：知的障害
- 第11回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑨：精神障害(統合失調症等)、(視覚教材)
- 第12回 チームコミュニケーション
- 第13回 記録
- 第14回 報告・連絡・相談
- 第15回 会議

【授業実施方法】

基本的には、講義と演習を行う。(適宜視覚教材を、活用する)。

【授業準備】

テキストを事前に確認し、分からない語句を事前に調べておくこと。

【主な関連する科目】

コミュニケーション技術Ⅰ、介護の基本、介護過程、人間の理解、高齢者福祉論、生活支援技術、日常生活支援技術演習、障害者福祉論、認知症ケア論等

【教科書等】

コミュニケーション技術(新・介護福祉士養成講座5)中央法規

【参考文献】

佐藤俊一：ケアを生み出す力、有限会社川島書店、東京、2011年。

【成績評価方法】

演習(20%)、レポート(10%)、定期試験(70%)で評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

介護業務・相談業務・日常生活での葛藤からコミュニケーションの難しさ・楽しさ・意味を事例・ロールプレイを交えた講義を展開する。

【学生へのメッセージ】

それぞれの障害の特性を理解した上で、クライアントとかかわっていきましょう。また、クライアントとかかわることをイメージしながら、コミュニケーション技術の活用方法を学んでいきましょう。